

いま飲んでいるその薬、本当に大丈夫？

名医が処方しない



生活習慣病の薬

POWER MOOK 74

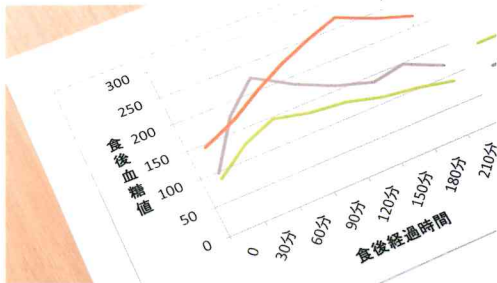
本体

500円

+税

糖尿病の薬

病気よりも怖い低血糖のリスク



高血圧の薬

減塩を心がければ
いらなくなる薬がある



脂質異常症の薬

薬に頼るより禁酒のほうが効果的！



寿命が延びない薬、 副作用を起こす薬

現役医師が薬との正しい
つき合い方を伝授！



秋津医院院長
秋津壽男



長尾クリニック院長
長尾和宏



生活習慣病は
自力で改善できる！

条件つきで
「飲んでも大丈夫」
な薬とは？



糖尿病、高血圧、コレステロール…… いま飲んでいる薬は本当に大丈夫？

生活習慣病となつてから苦痛を感じるのが薬の服用、食生活のコントロール、定期的な運動だ。中でも大変なのが薬の服用。「一生飲み続けなければならぬ」——。その「思い込み」により、精神的に疲弊する毎日を送ることになる。

また、生活習慣病の薬には重大な副作用を引き起こし、健康被害の恐れがある薬も存在する。薬によっては「寿命が延びない」と実証されているものもあるのだ。

本誌は生活習慣病の薬のメリット&デメリットについて知るため、名医と呼ばれる医師を取材。いま飲んでいる薬は本当に大丈夫なのか？ 薬の服用を続ける前に、その効果と弊害を知るべきだろう。

場合によっては、生活を見直すことで、薬の量を減らしたり、薬をやめられる可能性もある。まずは名医たちの声に耳を傾けてもらいたい。

【おことわり】

- * 医師・医療機関への取材をもとに生活習慣病の予防・改善に役立つ情報を集めていますが、実践した場合の効果には個人差があります
- * 医療機関での治療を受けている場合や服薬中の場合は、医師の指導に従ったうえで、治療計画の補完として本誌の内容をお役立てください

こちらの 名医たちに 聞きました

(五十音順)



岡田正彦

おかだ・まさひこ

新潟大学医学部名誉教授

1946年、京都府生まれ。1972年、新潟大学医学部卒業。1990年より同大学医学部教授。『検診で寿命は延びない』（PHP新書）などの著書がある。現在は水野クリニックで生活習慣病、予防医療に特化した専門外来を担当。



秋津壽男

あきつ・としお

秋津医院院長

1954年、和歌山県生まれ。大阪大学工学部、和歌山県立医科大学医学部を卒業後、循環器内科に入局し、心臓カテテル、ドップラー心エコーなどを学ぶ。東京労災病院などを経て、1989年より現職。



長尾和宏

ながお・かずひろ

長尾クリニック院長

1958年、香川県生まれ。医学博士。東京医科大学卒業後、大阪大学医学部附属病院、市立芦屋病院などで内科勤務を経て現職。地域密着型の外来診療と在宅医療に携わる。臨床の傍ら、精力的な執筆・講演活動も行う。



坪田 聡

つばた・さとる

雨晴クリニック副院長

1963年生まれ。医師、医学博士。1987年、医師免許を取得し、診療を始める。睡眠障害の治療・予防に従事し、指導・普及にも尽力。インターネット上でも睡眠の質を向上させるための情報を発信している。2008年より現職。